

宇都宮市立新田小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の確実な習得のための指導の工夫 単元を通しての学習の流れの提示 導入や教材との出会いの工夫 目標(「何をするか」)の明確化 活動や学びの振り返り(「何ができるようになったか」)の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> 6年生は、どの教科も知識・技能に関する問題の平均正答率が市よりも下回った。 「勉強が好きか」を問う設問の肯定割合は、3、4年生が市の平均を上回り、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の設問の肯定割合も3、4年生が市の平均を上回った。
思考力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 考える視点・書く視点の提示 振り返りの充実・視点の提示 発問の精選 問い返しや補助発問の工夫 授業を通しての書く活動の設定 一人学びの時間の確保と教師の支援 ノート・ワークシートの工夫 キーワード、イメージ図の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業で習ったことを、分かりやすくノートにまとめている」かを問う設問の肯定割合は3学年で市の平均を上回った。 「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」の設問では、設問がある全学年で肯定割合が市の平均を下回った。
学び合いの充実	<ul style="list-style-type: none"> 教師のコーディネート 一人一台端末の活用 話し合いを深めるツールの開発と活用 話し合いの目的・視点の明確化 学習形態の工夫(ペア学習・グループ学習) 	<ul style="list-style-type: none"> 「グループなどでの話し合いに自分から参加している」の設問の肯定割合は3学年で市の平均を上回った。 3年生は「自分の考えを、理由を挙げながら話すことができる」の設問の肯定割合が大きく市の平均を上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・今年度も基礎基本の定着に課題が見られるため、次年度も基礎的な知識を定着できよう指導をしていくことが必要である。そのために、単元を通しての学習や、学びの振り返りの充実を図っていく。また、家庭での学習の習慣化も図っていけるよう、家庭と連携していく。

・ペア活動や話し合い活動を、授業の中で多く取り入れるようにしたことで、児童同士の学び合いが深まりつつある。次年度は、自分の考えをしっかりともち伝え合うことで、深い学び合いができるように指導していく。

・「自ら学び、互いに高め合う児童の育成」を継続し、児童が対話を通して考えを広げたり深めたりできるような授業展開を工夫したり、教材開発を行ったりするなど、分かる喜び、考える楽しさを味わえるようにする。